

16 鶏の図 川村清雄

一面

大正、昭和初期(二十世紀)
絹本銀地油彩
本紙二五・五×三二・七

明治大正期に活躍した洋画家川村清雄(八五二―一九三四)は、趣向をこらした寓意表現を好んだ。本図は横倒しになった白の上に鶏が乗る姿を描くが、これは中国の伝説にある諫鼓鳥という太鼓と鶏の取り合わせを想起させる。諫鼓鳥とは、かつて中国で朝廷の施策に諫言がある者に打ち鳴らさせるために鼓が置かれたが、皇帝の善政によって鼓を打つ者はなく、いつしか鼓には苔が生え、鶏がその上で遊ぶようになったという逸話である。朽ち果てた白は天下泰平を象徴する苔むした太鼓の見立てとも考えられよう。本図は、高松宮喜久子妃が御成婚に際して、徳川家より持参されたもの。同宣仁親王が薨去された後に御遺品として秩父宮勢津子妃へ贈られた。



17 瓦に鶏置物 吉向松月(七代)

一点

昭和四十三年(一九六八)
陶磁
一六・五×一三・三×二五・七

酉年(昭和四十四年)の干支の置物。鶏が瓦に留まる姿は、軒丸瓦の形状から、太鼓に留まる諫鼓鶏のイメージを転用したもののようにもみえる。体部には細かく彫り込みを入れて白土を象嵌し、鶏の羽毛を巧みに表現している。作者の七代吉向松月(蕃斎、一九二四年生まれ)は、江戸時代後期に活躍した初代吉向治兵衛を祖とする吉向焼の流れを受け継いだ大阪の陶芸家で、鮮やかな色釉を用いた茶陶を主に制作してきた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

寿ぎの品々を読み解く

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 75

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年一月七日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonnan Shozokan